

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第99号 (R元.10.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 10月も早や下旬となり、夕暮れが一段と早くなってきました。今年、ニュースをお伝える頃に台風襲来が連続し、台風19号では、関東甲信越から東北地域にかけて多くの方が亡くなられ、また甚大な被害を受けたことに対し、ご冥福とお見舞いを心から申し上げますと共に、冬の訪れ前の一日も早い復興を願うばかりです。

さて今回のORMZニュースでは、9月の講演会の様子、生徒さんたちの感想やザンビアでの活動をドキュメンタリー番組として制作されたものが最優秀賞をいただいたこと、現地の活動報告などをお伝えします。

会の活動報告

・認定NPO法人としての5年の認定期間が2020年1月27日と近づいてきたことから、認定更新の手続きを行っています。今月になり、詳しいチェックが始まり、過去5年間の会計帳簿や寄附者名簿、様々な書類を提出してチェックを受けている状況です。

ORMZ 活動ドキュメンタリー番組が最優秀賞

・昨年、宮崎の放送局、UMK テレビ宮崎さんが制作放送したドキュメンタリー番組が、海外の映像祭で賞をいただきました。山元香代子副理事長がアフリカ・ザンビア共和国のへき地で巡回診療を行う姿を描いた「道なき道の彼方へ ～へき地を診る医師～」が中国・ロシア・モンゴル・韓国・日本などが参加するFISH EYE INTERNATIONAL FILM FESTIVAL (フィッシュアイ国際映像祭) のドキュメンタリー部門で最優秀賞に選ばれました。すごいですね。

・出品に際しては、宮崎県都城市にあるケーブルテレビ「都城BTV」さんが声をかけていただいたことをきっかけに出展したところ受賞したとのことでした。

・都城BTVの皆様、また制作に関わった関係スタッフの皆様(村上辰之助ディレクター)に深く御礼申し上げます。



映画祭の様子 (山元先生の顔が写っています)



トロフィーを持ち喜ぶ村上ディレクター

現地活動報告（山元香代子先生）

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本では台風の被害が非常に大きく、多くの方々が被災されたと聞きました。被災されたみなさまには心からお見舞い申し上げます。

私は 9/30 にルサカに戻りました。ジャカラランダの花がとてもきれいです。戻った直後は肌寒い毎日でしたが、先週から暑くなってきました。毎日 12 時間近くの停電があり、パソコンや携帯電話のバッテリーが切れたり、プリンターや電気オーブンなどが使えず、お手伝いのポーリンさんは炭を使って昼食の準備をしています。夜の太陽光ライトでは正直あまり仕事できません。5 月末に引っ越しした家では井戸があり電気でタンクに水を貯めていますので、停電でもタンクに水があれば断水することはありません。その点はとても助かっていますが、多くの地域で断水が続いています。台所の電気オーブンの下の台を白アリが浸食していて、その修理ができず、台所は引き出しなどが出されたままの状態です。

1 年以上トヨタザンビアの修理工場に入っていたランドクルーザーが 9 月末に戻ってきました。エンジンの修理でした。部品など 2 割引きに値切ったりして交渉したのですが、最終的に 16,621 ドル、日本円で 180 万円でした。2017 年にクランクシャフトの交換をトヨタザンビアではなく、地元の安い業者に依頼した私の判断ミスだと考えます。申し訳ありませんでした。

10 月 2 日はサンダラでの巡回診療。患者数は 45 名。マラリア陽性は 42 名中 3 名 (7.1%)。5 歳未満の子供の陽性者は 0 でした。マラリア患者はルアノとの境界の村からの患者でした。帰りにレンタカーの後輪が外れる事故があり、そのレンタカーはチサンバヘルスセンターに置かせていただき、ルアノに帰り着いたのは夜中でした。翌日には運転手は必要なボルトやナットを購入し、チサンバに修理に向かいました。レンタカーでも整備不良のことがたびたびあり注意が必要です。

10 月 9 日はルアノでの巡回診療。患者数は 37 名。マラリア陽性は 36 名中 1 名 (2.8%)。5 歳未満の子供の陽性者は 0 でした。お葬式と重なり、患者数が少なかったです。亡くなった方は 30 才前後で、糖尿病だったと聞きました。巡回診療では、低血糖の心配があり、糖尿病の薬は処方していませんが、尿糖をチェックすることはできますので、積極的に検査を実施しなくてはと考えさせられました。診察する建物の内部は暑くてたまりませんでした。

サンダラ、リテタを除いてマラリアの患者数はあまり多くありません。郡保健局がルアノ・ニャンカンガ地区のマラリア蚊の殺虫剤噴霧を実施するとのことでしたので、今回はルアノの奥のサンダラとその周辺のみを噴霧を行うことにしました。郡保健局の担当者が、4 月の噴霧研修時のロッジへの借金をきれいにしなければ、ポンプや殺虫剤は貸さないと伝えてきました。4 月の研修時、その担当者の勧めに従い、チサンバの古いロッジと交渉して、ルアノからの 2 人の参加者の宿泊費、食事代や研修の教官の食事代なども支払ったのですが、郡保健局の担当者が勝手に新しいロッジに移り、高いカンファレンスルームを借り、高い昼食を食べていました。その額 2,135Kwacha (約 18,000 円) で、どう考えても理不尽で、とても腹が立ったのですが、支払わざるをえませんでした。この担当者は日曜日の夕方突然メールをよこし、翌日の月曜日から噴霧者研修を実施するのでルアノの 2 人に参加するようと言って



ジャカラランダの花



炭を使って昼食の準備

きました。金曜日に話した時には何も言わず突然前日のメッセージです。何とかルアノと連絡を試みましたが、ルアノは携帯電話も通じず、結局ルアノまで車を走らせ伝えるしかありませんでした。そして肝心の研修は新しいロッジで予定されていましたが、急遽古いロッジへと変更になりました。ザンビア人スタッフは、国からの研修費を着服するためにより安いロッジに移ったのだろうと言っていますが、どう考えてもおかしな話です。このような人が郡保健局のマラリア対策、建築案件などの環境問題の責任者です。

日本の医学生たちがお金を集め、モンボシという所にヘルスポストを建築しています。送金したお金の流れが不明瞭で医学生が一人、大学を休学して監督のためにザンビアに来了います。郡保健局の同じ担当者からヘルスポスト建築のフォローのための交通費や日当を出せとしきりに言われ、できる限り無視していると言っていました。

リテタ地区からマラリア患者が多いが、コミュニティヘルスワーカー (CHW) が一人しかいないので、十分な対応ができないと言ってきました。雨季はリテタまで行けませんので、薬剤などを CHW に渡してマラリア検査・抗マラリア薬の処方をお願いしていますが、確かに一人ではたいへんです。噴霧の実施が限られた地域のみになったので、11月にCHWの研修を実施することとしました。

私の不在の間も多くの方々に助けていただきました。レンタカーを借りながら ルアノ、ニャンカンガ、サンダラ、リテタにそれぞれ月1回巡回診療は継続されました。みなさまからの支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

講演会 生徒さん達の感想

・9月16日に宮崎大宮高等学校で、そして25日には宮崎西高等学校で生徒さん達にザンビアでの活動の様子を山元香代子先生が講演をされました。その後、その際の感想文が生徒さん達から届きましたので、許可を頂き、いくつか掲載させていただきます(8月の西校附属中学校生徒さん分も最後に)。

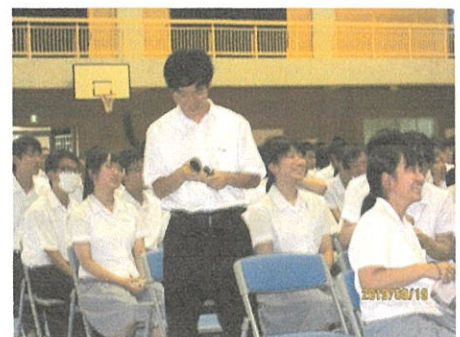
・宮崎大宮高等学校

先生が活動のことを一生懸命話して下さいととてもありがたかったです。私が印象に残ったのは、他国に行っても確かな技術と知識がないと足手まといになり、それを支えるのが優しい心だということ、こちらが一方向的に施すということは一度も考えたことはなく、逆に日々を一生懸命に生きるザンビアの人々に力を与えてもらっているということでした。(1年生)

先生のお話の途中で見せていただいた映像で、女性と小さな男の子が水をくみに行ったときのものがありましたね。最初はなぜ土を掘っているのだろうと見ていましたが、土の中から濁った茶色の水が出てきたときには驚愕しました。私達と同じ星に生きている人々が自分たちとは真逆な劣悪な環境で生きていることを改めて思い知らされました。(途中略)自分が人のために何ができるか模索していきたいです(1年生)

今私達はとても恵まれていて他の国にはまだまだ公共設備が十分でないところがたくさんあるということを改めて感じました。(途中略)皆が笑顔で暮らせる日々がくるようにすこしでも役に立てるよう行動したいです。(2年生)

先生の献身的な活動に非常に感銘を受けました。私の将来の夢は医師になることです。医師になったあとどのような活動がしたいかは未定ですが、先生のように、多くの人々に希望を与えられるような医師になりたいと思いました。(3年生)



最も印象的だった言葉は「give and take」である。私を含め多くの人々は誰かを助けるとき、自分がその人を助けてあげている、という一方的な行為として捉える。しかし先生のような活動をしている方々は、そのように捉えるのではなく、相手を思いやり、相手の痛みを理解しようとする心を原動力として活動しているということに気づかされ、私もそのような心を持ってこれからの人生を歩み、そのような職業に就きたいと思った（3年生）



・宮崎西高等学校

自分の中に譲れない何かを持つことが大切という言葉が印象的でした。ザンビアでの医療活動をチームで頑張ってきたから一人の力ではないということも私の心に秘めていたいです。周りの人がいるから活躍できたり今の自分に繋がったりしているということを感じていたいと思います（1年生）

初めて知ることが多くあり、厳しい環境の中でも協力し合って生活している姿が印象的でした。日本がどれだけ恵まれた環境の中にあるかということを感じ、再認識する機会にもなりました（2年生）

・西校附属中学校

私の将来の夢は小児科医になることだ。世界の子供達を病気から救いたいと思っている。今回の講演はそんな私の夢と同じ類の方のお話だった。その中で一番最後に山元先生がおっしゃっていた「絶対にどんなことがあっても生きてほしい」という言葉はどこか力強さを感じた。私もそういう女性になりたいと思った（学年不明）



賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・2019 事業年度（事業年度は1月から12月）となりました。賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をよろしくお願いいたします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp または hidaka1956@gmail.com）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

*** 令和元年（2019年）もどうぞご支援のほどよろしくお願いいたします**